

## 立命館大学アート・リサーチセンター日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点 2014 年度全体カンファレンス参加報告 附 芝居番付デジタル化作業見学

2015 年 3 月 2 日 参加者・発表者：武藤祥子／参加者・文責：井川繭子

当館は 2014 年度、アート・リサーチセンターと提携して、大きく分けて二つの事業を行った。ひとつは日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点の研究プロジェクトとして採択された「演劇上演記録のデータベース化と活用、ならびに汎用利用システム構築に関する研究」、もうひとつは、当館が所蔵する約 5 千枚の芝居番付のデジタル化と目録化の研究委託（受託研究）事業である。

このたび 2014 年度の全体カンファレンスが立命館大学アート・リサーチセンターで行われ、研究代表者として当館の事務局の武藤祥子が出席し、初年度のプロジェクトの成果を発表してきた。また、芝居番付のデジタル化進捗状況も見学することができた。ここにその模様を報告させていただく。

カンファレンスはまず午前中に、立命館大学の赤間亮先生・金子貴昭先生による共同研究拠点の活動報告があり、続いて元プラハ国立美術館東洋館館長のヘレナ・ホンクーポヴァ氏による基調講演「日本美術研究におけるデジタル・アーカイブの効果」があった。

この中では、海外における日本美術研究の歴史から始まって、日本とアメリカとヨーロッパにおける各美術館のデジタル・アーカイブの現状と各データベースの特徴（画像の解像度や公開画像の点数）について実例を見せながら説明があり、こうしたデータベースの充実度において、立命館アート・リサーチセンターが作成・提供しているデータベースは各国で高く評価されている点を述べられた。そして海外の研究者や美術館関係者にとっては、データベース上で検索・閲覧が可能になったことで、展覧会の企画や研究も飛躍的に進み、その成果として近年各国で日本美術の展覧会が多く開催されるようになってきていることなどが報告された。こうした内容が実際に海外の美術館関係者の口から語られると大変説得力があり、所蔵資料を積極的にデータベース公開することで、世界的にその美術館の価値が高まっていく傾向にあることを実感させられた。

お昼休憩をはさんで、午後は 2014 年度に採択された 11 のプロジェクトによる各 20 分のプロジェクト成果発表があった。

前半に報告したテーマ設定型の六つのプロジェクトは、京都盆地にある文化資源を対象とする研究やデジタル・アーカイブ技術の開発に関する研究、海外の日本文化資源をデジタル・アーカイブする研究などである。いずれも研究対象は江戸時代の古地図や地誌や版木だったり、伝承者が絶えてしまいつつある近代の染織技術であったりとさまざまだが、それをデジタル・アーカイブの手法を使って後世に伝えるべく記録に残したり、資料をデータベース化して新たな活用方法を開発する研究が報告された。

また、海外の所蔵機関へ出向いて行って所蔵資料を撮影するだけでなく、その撮影技術を現地のスタッフに伝授して自分たちでデジタル化をしてもらおうという教育的活動も行っていることが報告され、これによりレベルの高いデジタル・アーカイブ技術が各国で利用され広まっていく成果も発表された。

後半の五つのプロジェクトは個別テーマ型の研究課題で、当館はそのうちのひとつにあたる。他の発表もそうであるように、当館も事前に提出した発表レジュメとは別に POWERPOINT に写真を多く載せて提示し、以下のような活動の様子を具体的に報告するように工夫した。

演劇の上演記録データベースは当館が以前より継続的に作成・考証しているものだが、今年度は通常行っている劇場別の考証作業の他に、「新派公演」に関する記録の考証作業を重点的に行った。現在は昭和 20 年以降の戦後の記録についてほぼ考証が終了しており、今後データ



全体カンファレンスにおける当館の発表風景

ベースを構築して、[新派公式 HP \(http://www.shochiku.co.jp/shinpa/\)](http://www.shochiku.co.jp/shinpa/) 上で公開する予定となっている。

発表の中では演劇専門の当館の特色として、こうした研究が実際の松竹大谷図書館の日常業務に大変役立っており必要不可欠なこと、また今回新派の記録を考証するにあたり、松竹株式会社の新派担当者の協力を得て今後の公演にも役立つと期待されるデータベースが作成できること、さらには考証入力作業を行う人材の育成にもつながり今後の考証作業体制が整ったことなどを報告した。またこの他にも所蔵資料のデジタル化と公開に取り組んでいる例として、READYFOR?で実行したクラウドファンディングプロジェクトにより資金を募り、平成 25 年度に行った雑誌『蒲田週報』のデジタル化や、現在作業中の 5 千枚の芝居番付のデジタル化についても述べた。

後半の他の発表の中では、海外の研究者による大学など教育機関のデータベース作成についての問題点も取り上げられ、デジタル・アーカイブの教育目的の使用や公開については著作権法の問題も含めて国がもっと考えていくべきであるという意見が出された。

今回参加する前までは、事務手続きの関係上、初年度は活動期間が短いことがこうした研究プロジェクトの通例とはいえ、昨年9月末にプロジェクトの始動報告を行うキックオフシンポジウムがあったばかりでは、半年足らずでまとまった成果を出すのはスケジュール的に厳しいのではないかと案じていた。しかし参加した各プロジェクトは元々研究計画や目的がしっかりしたものばかりで、短期間ながらも一定の成果を上げており、いずれも興味深く発表を聞くことができた。

今まで他の図書館や資料館などの類縁機関とは、資料の収集や保存、日常業務としてのレファレンス体制などで相互協力を仰ぐことはあったが、こうした研究プロジェクトとしての事業や共同研究という形での提携は 2014 年度が初めてであった。そのためこれら共同研究関係の諸業務には慣れないこともあって戸惑うこともあったが、何とか成果発表まで終えることができた。

なお、今回の成果発表も含めて審査が行われた結果、2015 年度も引き続き当館の共同研究が採択されたことを合わせてご報告したい。

さて、上記カンファレンスの休憩時間を利用して、当館所蔵の芝居番付デジタル化が行われているアート・リサーチセンターの作業風景を見学させていただいた。このデジタル化は、昨年度実行したクラウドファンディング第3弾プロジェクトにより資金を得て実施している事業である。

ひと口に芝居番付のデジタル化といっても、ただ撮影すればよいわけではない。まずは1枚ずつ状態をチェックして、折れたり皺がよったりしているものは「皺伸ばし」作業により平らに伸ばしていく。今回の作業では、画像を撮影するために必要な修復のみを行うことになっている。報告写真では目にしていたものの、実物をみるとその差は歴然としており、作業前と後とではまるで別人(?)、いや別の番付のようになっていた。修復の専門家によるこの丁寧な作業を目の当たりにしただけで、当館スタッフはもう感動である。

次に撮影作業の部屋へ移動して、作業中の様子を見せていただいた。最小限の動きで資料の移動を少なくして資料にできるだけ負担をかけず効率よく作業を行うために、暗幕で囲った小さなスペースで行われている。撮影する芝居番付の上に厚みのあるガラス板を置いてカメラを調整し、画像をチェックし、撮影したら作業表にチェックし…と、根気と体力の要る作業が延々続いていた。

この撮影された画像をさらに別のスタッフがチェックして、きれいに正確に撮れているかを確認した後、芝居番付に記載されている情報をデータに入力していく作業となる。

いずれの工程を見ても、今までに多くの番付や錦絵等を扱ってきたスタッフによる専門性の高い作業が効率よく進められていることがよく分かり、当館スタッフはまたまた感動してしまうのであった。

とても短い時間ではあったが、今回実際作業を担当している方々と直接お話しすることができ、資料の扱いやデータベースの入力項目等について細かい点までご相談できたことは、大変に有意義だったと思う。



皺伸ばし作業。折れ目も丁寧に伸ばしていく



原資料のサイズや色調をみるため、カラスケールを置いて撮影



原資料を横に置き、撮影した画像を拡大して細かい部分までチェック

≫≫ 新着資料案内 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 松竹系 3月 演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『通し狂言 菅原伝授手習鑑』	○		○	○
新橋演舞場	『スーパー喜劇 かぐや姫』	○	○	○	○
松竹座 (大阪)	『ブラッドブラザーズ』	○	○	○	○
	『関西ジャニーズJr. 春休みスペシャルshow 2015』				
南座(京都)	『矢の根』	○			
	『鳴神』	○			
	『流星』	○		○	○
	『弁天娘女男白浪』	○			
	『闇梅百物語』	○			
赤坂ACTシアター	『バラレー』			○	○
金沢歌劇座	平成中村座『怪談乳房榎』	○		○	

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 他社演劇公演資料 ■

赤坂RED/THEATER	2月	カタルシツ『地下室の手記』プログラム
大阪新歌舞伎座	2月	『舟木一夫特別公演』プログラム
	3月	『五木ひろし芸能生活50周年記念 歌舞奏スペシャル』プログラム
紀伊國屋サザンシアター	2月	劇団東演『検察官』プログラム、台本
国立劇場大劇場	3月	『梅雨小袖昔八丈・三人形』プログラム
国立劇場小劇場	2月	『管弦』プログラム
		『文楽公演』プログラム、床本
		『土佐の神楽』プログラム
ザ・スズナリ	2月	MONO『ぶた草の庭』プログラム
	3月	劇団ハートランド『バリカンとダイヤモンド』プログラム
シアタークリエ	2月	『ミュージカルコレクション2』プログラム
	3月	『死と乙女』プログラム
シアタートラム	2月	『解体されゆくアントニン・レーモンド建築 旧体育館の話』プログラム
新国立劇場小劇場	3月	新国立劇場演劇研修所公演『ミセス・サヴェッジ』プログラム
	3月	TRASHMASTERS『砂の骨』プログラム
	2月	『The River』プログラム
東京芸術劇場シアターイースト	2月	『めんたいぴりり』プログラム、ポスター
博多座	3月	『DIAMOND☆DOGS Funny』プログラム
博品館劇場		ドラマ・リーディング『死の舞踏』プログラム
		劇団EXILE『Tomorrow never Dies』プログラム
本多劇場	2月	加藤健一事務所『ペリクリーズ』プログラム
	3月	M&O playsプロデュース『結びの庭』プログラム
明治座	3月	『氷川きよし特別公演』プログラム

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『劇場版 ウルトラマンギンガS 決戦!ウルトラ10勇士!!』	○				
『唐山大地震』		○	○		
『劇場版 境界の彼方 I'LL BE HERE 過去篇』			○		
『たまゆら〜卒業写真〜 第1部 芽きざし』	○				

■ 映画プログラム ■

- 『劇場版 PSYCHO-PASS サイコパス』 『ANNIE アニー』  
『ドラフト・デイ』 『エクソダス：神と王』 『ジョーカー・ゲーム』  
『テラスハウス クロージング・ドア』 『味園ユニバース』 『きっと、星のせいじゃない。』  
『チャーリー・モルデカイ 華麗なる名画の秘密』 『ビッグ・アイズ』  
『映画 ST赤と白の捜査ファイル』 『シン・シティ 復讐の女神』 『サンバ』  
『映画 妖怪ウォッチ 誕生の秘密だニャン!』 『ストロボ・エッジ』  
『トラッシュ!この街が輝く日まで』 『風に立つライオン』 『博士と彼女のセオリー』  
『アイドルの涙 DOCUMENTARY of SKE48』 『イントゥ・ザ・ウッズ』  
『フィフティ・シェイズ・オブ・グレイ』 『劇場版 シドニアの騎士』 『妻への家路』  
『シェフ 三ツ星フードトラック始めました』 『映画ドラえもん のび太の宇宙英雄記』  
『ジュピター』 『ジヌよさらば ～かむろば村へ～』

■ 演劇雑誌 ■

- 『AAC』2015年Vol. 83 『シアターガイド』2015年5月号  
『あぜくら』平成27年3月 『ステージぴあ』2015年3+4月号  
『アート・リサーチ』2015年3月(15号) 『近松研究所紀要』2015年(25号)  
『演劇界』2015年5月号 『テアトロ』2015年4月号  
『演劇ぶっく』2015年4月号 『伝統文化新聞』2015年(106号)  
『大江戸かはら版』26号 『花びし』平成27年春号152号  
『大向う』平成27年4月号 『Bandaly』2015年(14号)  
『おもだかニュース』2014年7月号～2015年2月号 『ひろば』2015年133号  
『歌舞伎 研究と批評』2015年(53) 『舞台芸術通信PROBE』2015年2月9号  
『喝采』2015年7月 『邦楽の友』平成27年4月号  
『Confettiかわら本』2015年3月号 『ままごとの新聞』10号  
『義太夫』91号,96号～100号 『ミュージカル』2015年3月-4月号  
『芸劇BUZZ』2015年4月-5月-6月号Vol. 11 『日本芸術文化振興会ニュース』平成27年4月号  
『げき』2015年3月14号 『日本照明家協会誌』2015年3月号  
『国立演芸場公演ガイド』平成27年4月号 『日本舞踊』67巻4月号  
『SAKURA TIMES』Vol. 20, 21, 22 『ラ・アルプ』2015年4月号

■ 映画雑誌 ■

- 『映画学』2014年28号 『シナリオ教室』2015年4月号  
『映画時報』2015年1月号 『SCREEN』2015年5月号  
『映画テレビ技術』2015年4月号 『松竹(社報)』2015年(186号)  
『映画ビジネス』平成26年10月下旬号,平成27年  
年新春特別,2月上旬号,3月上旬号 『ドラマ』2015年4月号  
『映画秘宝』2015年5月号 『文化通信ジャーナル』2014年10月号～2月号  
『映画論叢』2015年(38号) 『日経エンタテインメント!』2015年4月号  
『NFCカレンダー』2015年4月-5月号 『日本アカデミー賞協会会報』77号  
『衛星劇場プログラムガイド』2015年4月号 『ムービー・スター』2015年5月号  
『キネマ旬報』2015年4月上旬号,4月下旬号 『ムービータイムス』6919号,6921号,6922号,6924号,6926号  
『シナリオ』2015年5月号 『ロケーションジャパン』2015年4月号

■ 書 籍 ■

『フランス・バロック演劇研究』	藤井康生 (著)	平凡社
『アバンギャルド・シアター 1892～1992』	クリストファー・イネス (著)	テアトロ
『竹田出雲集 新装版(日本古典選)』	鶴見誠 (校註)	朝日新聞社
『中世の身ぶり』	ジャン=クロード・シュミット (著)	みすず書房
『近松半二集 (日本古典全書)』	守随憲治 (校註)	朝日新聞社
『演劇の記号論』	K. イーラム (著)	勁草書房
『笑いのたくらみ 喜劇性と滑稽さの博物誌』	ジャン・デュヴィニョー (著)	東海大学出版会
『演劇の理念』	フランシス・ファーガソン (著)	未来社
『パフォーマンス研究』	リチャード・シェクナー (著)	人文書院
『ルネサンスの祝祭 王権と芸術』	ロイ・ストロング (著)	平凡社
『明治の演劇』	岡本綺堂 (著)	同光社
『シェイクスピア時代の劇場と劇団』	茗荷幸也 (著)	三省堂
『フランス演劇史概説』	岩瀬孝+佐藤実枝+伊藤洋 (著)	早稲田大学出版部
『ストレーレルは語る』	ウーゴ・ロンファーニ (著)	早川書房
『文楽の藝術』	石割松太郎 (著)	早川書房
『世のならわし』	ウィリアム・コングリーヴ (著)	あぼろん社
『イギリス中世劇集 コーパス・クリスティ祝祭劇』		篠崎書林
『伊藤熹朔 舞台美術の巨人』	俳優座劇場 (編)	NHK出版
『土木映画の百年 「土木技術映像」100特選ガイド』	土木学会土木技術映像委員会 (編)	言視舎
『女形になったチャンバラ映画少年』	片岡嶋之丞 - 2世 (著)	墨染会
『近松門左衛門 研究入門』	近松研究会 (編)	東京大学出版会
『ドイツ演劇・文学の万華鏡 岩淵達治先生古希記念論集』		同学社
『浄瑠璃の世界』	阪口弘之 (編)	世界思想社
『笑劇全集 完全版』	井上ひさし (著)	河出書房新社

≫≫ 資料提供 (2015年2月～3月)

※許可を得た方のみ掲載しております

展示

●「四代目中村鴈治郎襲名記念展 がんじろはん！」 2015年3月3日より4月26日歌舞伎座ギャラリー  
初代および二代目中村鴈治郎のスチール写真、歌舞伎映画『中村鴈治郎 舞台のおもかげ』、弦屋光溪画錦絵、筋書など21点を展示及び会場内の映像に提供

●「松竹歌舞伎×ユニクロプロジェクト」仏プレス取材会 2015年3月24日 歌舞伎座ギャラリー  
押隈掛軸、錦絵、組上燈籠、書籍、筋書、台本、切符袋、大入袋、歌舞伎の海外公演資料など63点を取材会場の展示資料として提供

出版

●『叢書セミオトポス9 着ること／脱ぐことの記号論』日本記号学会 2014年10月 新曜社  
映画『浪華悲歌』と『祇園姉妹』のスチール写真3点を池田淑子氏の論文「日本映画に見るモガの表象 洋装とナショナル・アイデンティティ」に提供

●『松竹 ISSUE 三月社報186』 2015年3月20日 松竹  
『松竹社報』第109・190・191号(1959年5月・1966年2月・3月)を提供

放送

●「松竹創業120周年記念特番」 2015年2月21日より3月31日(10回放送)CS衛星劇場・ホームドラマチャンネル

撮影所外観スチール写真や映画『路上の霊魂』『マダムと女房』スチール写真、『カルメン故郷に帰る』ポスターなど11点を提供

## ≫≫ 展覧会紹介

松竹大谷図書館が、所蔵資料を出展している展覧会をご紹介します。

### ●歌舞伎座ギャラリー「四代目中村鴈治郎襲名記念展 がんじろはん！」（※場内は一部を除き撮影禁止です）

現在、歌舞伎座で行われている「中村翫雀改め四代目中村鴈治郎襲名披露」の興行に合わせ、歌舞伎座タワー5階歌舞伎座ギャラリーにて新しい「がんじろはん」の襲名を記念した「四代目中村鴈治郎襲名記念展 がんじろはん！」の展覧会が、4月26日まで開催されております。

この展覧会では、明治から昭和にかけて、“大阪の顔”と称えられ松竹株式会社とも深いかかわりをもっていた初代、ひろい芸域を誇った昭和の二代目、今なおみずみずしい芸で存在感を放つ坂田藤十郎（三代目鴈治郎）、代々の鴈治郎の魅力を伝えながら、新しい鴈治郎の芸や人となりを紹介しています。

入口より入ると、まず、劇場にいる気分で中村鴈治郎代々の舞台を編集したビデオを見ることができるコーナーがあります。次に、四代の鴈治郎による、家の芸『心中天網島 河庄』の治兵衛の等身大の写真が出迎えてくれます。代々の個性を、一度に知ることのできる展示になっております。

当館からは、初代、二代目の筆になる短冊や絵、初代の“玩辞樓十二曲”の写真などを展示に出品しています。



続いて、当代の家族が語る「がんじろはん」など、四代目鴈治郎の素顔を知ることができるコーナーがあります。また、各界から当代に寄せられた応援メッセージがあり、その下のボードに、ご来場されたお客様も、当代のがんじろはん宛のメッセージを書いて、貼りつけられるようになっております。

それぞれの愛用の品々、舞台写真を盛り込んだ新中村鴈治郎の年表などとともに、おなじみの『恋飛脚大和往来 封印切』で実際に使われる小判や証文などの小道具、衣裳…といったものもなんでいます。



展示室に併設された「木挽町ホール」では舞台に上がって、口上姿の当代鴈治郎（のパネル）と並んで記念撮影することもできます。舞台には、第四期歌舞伎座で長年使われていた檜が敷かれており、歴代の歌舞伎俳優が踏んだ舞台に上がることができる、またとない機会です。

当代の温和で陽気な笑顔に囲まれて、見ているこちらもちほり温かくなってきます。関西歌舞伎を身近に感じ、4月の襲名披露公演をよりお楽しみいただけることでしょう。



会期: 2015年3月3日(火)～2015年4月26日(日)  
会場: 歌舞伎座ギャラリー(Kabukiza Gallery)  
所在地: 東京都中央区銀座四丁目12番15号 歌舞伎座タワー5階  
休館日: 会期中、休館日なし  
開館時間: 10:00～18:00(最終入館は17:30まで)

## 第51回所蔵資料展示「野村芳太郎監督」展

展示期間：2015年3月16日～4月28日／於 閲覧室

2015年は、松竹で多くの映画を監督した野村芳太郎監督の没後10年にあたります。サスペンス映画の名匠として著名な野村芳太郎監督ですが、どんな作品でも高水準に仕上げる巧みな監督でもありました。

また、野村芳太郎監督は、1987年よりお亡くなりになるまでの約18年間、当館の評議員を務めていただきました。当館にとってもご縁の深い監督です。

野村芳太郎監督は、1919年4月23日東京浅草に生まれました。父は、松竹蒲田を代表する監督、野村芳亭で、松竹蒲田撮影所の所長も務めました。息子の野村芳太郎監督は幼い頃より、映画の現場である撮影所で育ち、その当時を伝える写真が、プロデューサーとして野村芳太郎監督が関わった映画『キネマの天地』（1986年）のスクラップブックに収められています。ハリウッドスター早川雪洲に抱かれた幼い野村芳太郎監督と、父野村芳亭監督。新派の名優で映画でも活躍した井上正夫。映画製作者の六車修。映画人に囲まれて育った環境が垣間見える一枚です。

1941年に慶応義塾大学を卒業し、松竹大船撮影所助監督部に入社。翌年応召され、ビルマ戦線より生還後大船に復職し、川島雄三、黒澤明、家城巳代治などの助監督を経て、1952年に、『鳩』で助監督の肩書のまま、監督デビューしました。翌年、正式に監督昇進した後は、時代劇、文芸、歌もの、メロドラマ、喜劇、ミュージカル、ホームドラマなど、バラエティに富んだジャンルで活躍しました。そして1958年、松本清張原作の『張込み』で、初めてサスペンスに取り組みます。この作品の成功により、以後松本清張原作の作品をはじめとする多くのサスペンス映画を手がけ、特に『砂の器』は傑作として、野村芳太郎監督の代表作になっています。一方で、岩下志麻主演の女の復讐劇『五瓣の椿』、渥美清やハナ肇、コント55号が出演する喜劇なども監督しており、変わらぬ多才さを発揮し続けました。プロデューサーとしても活躍し、1973年に脚本家橋本忍主宰の橋本プロに参加します。1978年には松本清張と霧プロを設立し、1984年に解散後は、プロダクション・クラブ・ボードを設立します。1985年の『危険な女たち』を監督後、2005年4月8日に85歳で逝去しました。

### 【展示資料一覧】

●スチール[『キネマの天地』（1986年）スクラップより]  
[写真左より]六車修、野村芳亭、野村芳太郎、早川雪洲、井上正夫

### 【野村芳太郎監督作品】

『鳩』（1952年）●台本[梗概]、スチール  
監督：野村芳太郎/脚本：中山隆三/出演：石浜朗、有島一郎、小園蓉子 ◆「SP」（シスター・ピクチャー）と呼ばれる中篇映画。二本立ての一本として、当時松竹が主に新人に担当させていた。

『鞍馬天狗 青面夜叉』（1953年）●スチール  
監督：野村芳太郎/脚色：鈴木兵吾/原作：大佛次郎  
出演：島田正吾、辰巳柳太郎、月丘夢路

『青春三羽鳥』（1953年）●スチール  
監督：野村芳太郎/脚色：野村芳太郎/原作：佐々木邦  
出演：高橋貞二、川喜多雄二、三橋達也

『伊豆の踊子』（1954年）●プレスシート  
監督：野村芳太郎/脚本：伏見晃/原作：川端康成  
出演：美空ひばり、石浜朗、片山明彦

『びっくり五十三次』（1954年）●プレスシート  
監督：野村芳太郎/脚本：椎名利夫、津路嘉郎、永江勇  
出演：高田浩吉、美空ひばり、勝浦干浪

『亡命記』（1955年）●スチール  
監督：野村芳太郎/脚色：椎名利夫/原作：白藤茂  
出演：佐田啓二、岸恵子、佐分利信

『踊る摩天楼』（1956年）●スチール  
監督：野村芳太郎/脚本：野村芳太郎、光畑碩郎  
出演：古川ロッパ、川喜多雄二、越路吹雪

『糞尿譚』（1957年）●スチール  
監督：野村芳太郎/脚色：橋本忍/原作：火野葦平  
出演：伴淳三郎、森繁久彌、渋谷天外

『張込み』（1958年）●スチール  
監督：野村芳太郎/脚色：橋本忍/原作：松本清張  
出演：大木実、田村高廣、宮口精二

『ゼロの焦点』（1961年）●スチール  
監督：野村芳太郎/脚色：橋本忍、山田洋次/原作：松本清張  
出演：久我美子、高千穂ひづる、有馬稲子

『東京湾』（1962年）●スチール[撮影風景]  
監督：野村芳太郎/脚本：松山善三、多賀祥介/出演：石崎二郎、榎ひろみ、葵京子 ◆俳優佐田啓二の第一回企画作品。

『拝啓天皇陛下様』（1963年）●スチール  
監督：野村芳太郎/脚色：野村芳太郎、多賀祥介/原作：棟田博  
出演：渥美清、長門裕之、左幸子

『五瓣の椿』（1964年）●台本、スチール  
監督：野村芳太郎/脚色：井手雅人/原作：山本周五郎  
出演：岩下志麻、加藤剛、早川保

『コント55号と水前寺清子の神様の恋人』（1968年）  
●スチール  
監督：野村芳太郎/脚本：山根優一郎、吉田剛、野村芳太郎  
出演：萩本欽一、坂上二郎、水前寺清子

『影の車』（1970年）●スチール  
監督：野村芳太郎/脚本：橋本忍/原作：松本清張  
出演：加藤剛、岩下志麻、小川真由美

『なにがなんでも為五郎』（1970年）●スチール  
監督：野村芳太郎/脚本：ジェームス三木、野村芳太郎  
出演：ハナ肇、谷啓、光本幸子

『砂の器』（1974年）●プログラム  
監督：野村芳太郎/脚本：橋本忍、山田洋次/原作：松本清張  
出演：丹波哲郎、森田健作、加藤剛

『八つ墓村』（1977年）●スチール  
監督：野村芳太郎/脚本：橋本忍/原作：横溝正史  
出演：萩原健一、渥美清、小川真由美

『配達されない三通の手紙』（1979年）  
●カラー・スチール(ロビーカード)  
監督：野村芳太郎/脚本：新藤兼人/原作：エラリー・クイーン  
出演：佐分利信、乙羽信子、小川真由美

『震える舌』（1980年）●スチール  
監督：野村芳太郎/脚本：井手雅人/原作：三木卓  
出演：渡瀬恒彦、十朱幸代、若命真裕子

『危険な女たち』（1985年）●プログラム  
監督：野村芳太郎/脚本：竹内統一郎、古田求/原作：アガサ・クリスティ/出演：大竹しのぶ、藤真利子、利和布子



台本『五瓣の椿』（1964年）

## ■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

**公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。**

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### ● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2015（平成27）年3月にご支援いただきました

### 法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

どうもありがとうございます

### ■ ゴールデンウィーク期間中の

**休館のお知らせ**

平成27年4月29日(水)より

5月6日(水)まで

休館いたします。

5月7日(木)より通常開館いたします。

### ■ 編集後記

▼現在、松竹DVD倶楽部より、「あの頃映画 the BEST」と題して、名作映画の数々をリバイバルしたDVDやブルーレイが発売されておりますが、今号の閲覧室展示記事でお知らせしている野村芳太郎監督の作品も、ラインナップに多く含まれております。DVD作品では『あの橋の畔で』『拝啓天皇陛下様』『続 拝啓天皇陛下様』『拝啓総理大臣様』『五辨の椿』『夜明けの二人』『コント55号』シリーズなど。ブルーレイ作品では、『砂の器』『八つ墓村』『震える舌』『鬼畜』が発売中で、5月以降に『事件』『疑惑』『昭和枯れすすき』『配達されない三通の手紙』『真夜中の招待状』『張込み』『ゼロの焦点』『しなの川』が発売予定です。ブルーレイ作品は、ジャケットに劇場公開時のポスターデザインを採用するなど、当時の思い出が蘇る工夫が凝らされております。もちろん、野村芳太郎監督以外の名作も多く発売されておりますので、「あの頃」の懐かしい映画に触れてみたい方は、松竹DVD倶楽部のホームページを、是非ご覧になってみてください。

### ● 松竹DVD倶楽部

<http://www.shochiku-home-enta.com/>



### ● 利用案内

開館時間

平日午前10時～午後5時

休館日

土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期夏期特別整理期間

※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します。

閲覧 館内閲覧のみ  
入館料 無料

### ● 交通案内

東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分

東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

至銀座  
至晴海